

小規模校のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童・生徒の一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導を行いやすい。 ● 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人一人の個別の活動機会を設定しやすい、 	<ul style="list-style-type: none"> ● 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ● 1学年1学級の場合、共に努力してよりよい集団を目指す学級間の相互啓発がなされにくい。 ● 班活動やグループ分けに制約が生じる。 ● 運動会等の学校行事や音楽活動等、集団の教育活動に制約が生じやすい。 ● 児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりにくい。 ● 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。 ● 配置される教員数が少ないため、中学校では各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。

小規模校のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ● 異学年間の交流が生まれやすい。 ● 児童・生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導を行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒同士の人間関係や児童生徒と教員の人間関係に配慮した学級編成ができない。 ● クラス替えができないため、人間関係や相互評価等が固定化しやすい。 ● 集団内の男女比に極端な偏りが生じる可能性がある。 ● 互いに切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ● 組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じる。
学校運営面 財政面	<ul style="list-style-type: none"> ● 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互連携も図りやすい。 ● 学校が一体となった活動がしやすい。 ● 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員数が少ないため、経験・教化・特性などの面でバランスの取れた教職員の配置を行っていく。 ● 学年別や教科別の教職員同士で学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力や切磋琢磨等が行っていく。 ● 教職員の人数が少ないため、出張や研修等の調整が難しい。 ● 教職員の人数が少ないため、学校運営に係る校務分掌が過重になりやすい。 ● 複式学級の場合、教員に特別な指導技術が求められる。 ● 複式学級を担任する場合、複数学年分や複数教科分の教科研究・指導準備を行うことになるため、教員への負担が大きい。

小規模校のメリット・デメリット

その他	● 保護者や地域社会との連携が図りやすい。	● PTA活動等での保護者一人当たりの負担が大きい。
-----	-----------------------	----------------------------